

国立国語研究所学術情報リポジトリ

ペア入れ替え式ロールプレイ会話：場面2「依頼談話」

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2020-03-18 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: メールアドレス: 所属:
URL	https://doi.org/10.15084/00002754

ペア入れ替え式ロールプレイ会話：場面2「依頼談話」

松田 美香
(別府大学)

1. 場面設定

ペア入れ替え式調査の場面2の分析を行う。場面設定を以下にあげる。話し手二人の関係は、高年層・若年層とも同年代の友人である。

場面設定（場面2・高年層）

[A（電話のかけ手）への指示]

日曜日に自治会（職場・親睦グループ等）の集まりがあるのですが、所用で出席できなくなりました。Bさんに電話をかけ、代わりに出席してくれるよう頼んでください。断られても説得してください。

[B（電話の受け手）への指示] Aさんから電話がかかってきます。Aさんの持ちかける用件をいったんは断ってください。Aさんは説得してくるので、適度なところで了解してください。

若年層では、「自治会（職場・親睦グループ等）の集まり」を「ゼミ（サークル・親睦グループ等）のボランティア活動」とした。

蒲谷ほか(1993:52)では、「依頼行為」を「自分の利益になることを相手の好意による行動によって叶えられるよう働きかける表現行為」と定義している。本場面では、Aの代わりにBが集まり（若年層はボランティア）に出るよう、「A：依頼をする — B：断る — A：再度、依頼をする — B：依頼を受諾する」という流れが設定されている。

2. 先行研究

2. 1. 「コミュニケーション機能」による談話分析

熊谷・篠崎(2006：22-23)では、発話の機能を担う最小単位である機能的要素の上位概念として、「コミュニケーション機能」を示している。その結果、「依頼のコミュニケーション機能」を

- <きりだし>
- <状況説明>
- <効果的補強>
- <行動の促し>

<対人配慮>

<その他>

の6種にまとめた。以下は、その一部である。

表1 熊谷・篠崎(2006)表3-3より抜粋(一部改変)

コミュニケーション機能	機能的要素	
	荷物預け	往診
行動の促し	・ 預かりの依頼 (アズカッテクダサイ) ・ 依頼の念押し (オネガイシマス) ・ 意向の確認 (ドーデスカ)	・ 直接的依頼 (キテ イタダケマスカ) ・ 伝言形の依頼 (〜ト イッテマス) ・ 依頼の念押し (オネガイシマス) ・ 意向の確認 (イカガデショー)
対人配慮	・ 恐縮の表明 (スママセンガ/オジャマデシ ョーガ)	・ 恐縮の表明 (スママセンガ/ヤブン オソ レイリマスガ)

たとえば、「荷物預け」の<行動の促し>には、《(預かりの) 依頼》、《依頼の念押し》、《意向の確認》という3つの機能的要素が示されている。また、「対人配慮」においては、《恐縮の表明》が示されている。このように、「依頼」における談話の中で、機能を發揮して目的を達する言語要素を分析・抽出している。

2. 2. 「話段」をもちいる談話分析

ザトラウスキー(1993、2011)では、日本語による依頼談話の構造とストラテジーを、「話段」という単位で分析する。「話段」とは、「発話」それぞれを関連づけるために必要とされる「談話」の下位区分であり、依頼者と被依頼者が発話機能を使い分け、それぞれの目的による「依頼の話段(目的は「依頼」)」と「依頼応答の話段(目的は「承諾」や「断り」)」を一緒に作り上げるものである。ザトラウスキー(2011:133)の「依頼の話段」についての説明では、2人以上の参加者が雑談等で話す場合、

情報提供者：情報を提供することと関係する「発話機能」を用いる

協力者：協力して話段を作り上げる

の2つの役割があり、役割が交代するところで「話段」が変わると指摘している。ザトラウスキー(2011:129)では、日本語での親しい人同士の資料による「依頼」の談話について、

- ①依頼の前提条件が満たされているかどうかを確認する先行発話連鎖から始まる。
- ②依頼の話段はメタ言語的発話から始まり、その後依頼に関する情報が提供される。
- ③依頼を明示する前に「悪いけど」のように謝ったりする、依頼者の気配りが見られる。
- ④被依頼者が承諾した後大丈夫かどうかを再確認する。
- ⑤被依頼者が依頼者の情報提供や意思表示から依頼を察することもある。

とまとめている。①、②は、前述の熊谷・篠崎(2006:22-23)のコミュニケーション機能<きりだし>、③は同<対人配慮>、④は同<行動の促し>中の<<依頼の念押し>>とほぼ対応すると思われる。⑤については、明示的な依頼が不要な場合もあることを述べている。

本研究では、「依頼 → 断り → 再度の依頼 → 受諾」という流れがあらかじめ設定されている(1. 場面設定)。そのため、「話段」に相当する下位区分を設定し、高年層と若年層の構造を比較できるようにした。

3. 首都圏女性ペアの依頼談話の分析

(資料「ペア入れ替え式ロールプレイ会話：場面2「依頼談話」参照)

3. 1. 談話構造と談話展開の主導権

依頼談話をザトラウスキー(1991, 1993, 2011)の枠組みをもとにとらえてみた。

まず、本談話は「開始部」「主要部」「終了部」で大きく三分割される。「開始部」と「終了部」では依頼の具体的な内容は言及されない。「主要部」の中では、設定した依頼から断り、再度の依頼から受諾への流れを縦軸とし、同時に「会話の主導権の移り変わり」を基準にして、横軸にはそれぞれの発話目的を発話番号とともに記した(表2)。

「会話の主導権」の決定については、話題の開始や転換となる隣接ペア¹において第一発話をしている話し手であり、その話題がある程度続く場合にはその会話の主導的な役割を果たしている側と判断した。

表2では、高年層と若年層を比較できるように、事前に定められた流れにそって「主要部」内を区切ったものである。これらはおおむね「会話の主導権の移り変わり」に沿ったものになったが、高年層と若年層では、「依頼応答2(受諾)」と「終了部(別れの挨拶)」の構造に違いが出た。高年層ペアのほうが、より複雑な構造になっている。

高年層ペアと若年層ペアの構造を比較すると、

- ・高年層依頼者(B)の「断り」や「受諾」が明示的に示されないが、若年層では示された
- ・両年層の依頼者(A)の「依頼2」では直接的な依頼が行われず、「意向の確認」が行われるが、高年層の依頼者(A)のタイミングは、若年層のそれより遅れた
- ・高年層の依頼者(A)は「終了部(別れの挨拶)」でも「依頼の念押し」を行った
- ・高年層ペアのほうが「依頼応答2」や「終了部(別れの挨拶)」の構造が複雑であるという違いが見られる。

¹ 隣接ペアについては、林宅男(2008:111-112)『談話分析のアプローチ—理論と実践—』(研究社)を参照。

表2 依頼談話（場面2）の構造

		高年層ペア	若年層ペア
開始部		0001～0003 相手確認	0001～0003 相手確認
主 要 部	依頼1	0004～0009 Aによる事情説明 00010 Aによる依頼	0004～0013 Aによる事情説明 0014～0015-1 Aによる依頼
	依頼応答1（断り）	0011-1～0022 Bによる条件確認と感想	0015-2～0023 Bによる条件確認と断り
	依頼2	0022-2～0028 Aによる同意と事情説明	0024 Aによる意向の確認（依頼）
	依頼応答2（受諾）	0029～0043 Bによる非明示的な受諾 0029～0035 Bによる事情説明 0036 Aによる恐縮 0037～0038 Bによる報酬要求 0039～0043 Bによる事情説明 0044～0052 Aによる事情説明と報酬提案 0053～0059 Bによる非明示的な受諾 0060～0075-1 Aによる意向の確認（依頼）と謝意	0025-2～0026-1 Bによる受諾 0026-2～0029-2 Aによる謝意と報酬提案 0029-3～0031 Bによる説明要求 0032～0033-1 Aによる依頼の念押しと謝意
終了部		0075-2～0082 別れの挨拶 0075 Bによる別れの挨拶 0076～0077 Aによる依頼の念押し（A・B謝意） 0078～0082 Aによる別れの挨拶	0033-2～0034 別れの挨拶

3. 2. 依頼の要素の種類と現れ方

「依頼」談話の主要部の依頼者（A）の発話に現れる、「依頼」の機能を持つ要素を抽出した。

表3 「依頼」の機能的要素

	高年層ペア	若年層ペア
コミュニケーション機能	機能的要素	
きりだし	注目喚起、依頼条件の確認	注目喚起、依頼条件の確認、用件
状況説明	事情、依頼内容の詳細伝達	事情、依頼内容の詳細伝達
情報要求	理由説明の要求	理由説明の要求（中断）
効果的補強	感想への同意、相手事情の理解、事情の同意要求、依頼の理由、相手利益の補強、関係のやわらげ	事情の確認要求、相手利益の補強、事情詳細確認への同意、関係のやわらげ
行動の促し	交代の依頼、依頼の念押し	交代の依頼、依頼の念押し
対人配慮	恐縮の表明、謝意の表明	恐縮の表明、謝意の表明

高年層では、全体的に＜対人配慮＞が目立つ（表内の▼）。それも、0022-1A「悪い。」0022-3A「ごめん。」や、0068-1A「ありがとー、」0068-2A「感謝しま／／す。」のように、近似した意味の語を連続させる点が注目される。高年層の依頼者（A）は「依頼応答1」で明示的な返事が得られなかった。被依頼者（B）へ「依頼情報の詳細伝達」の後、0021B「結構長い／／ねー。」がある。そこから、0022-4A「忙しいのは十分わかんだけどさー。」「相手事情の理解」、0034A「なんかあんの↑。」「理由説明の要求」などの＜効果的補強＞を続けるが、被依頼者（B）の答えは0035B「んー。」という、またもや明示的な受諾ではなかった。その後、0037-1B「ランチー。」0037-2B「{笑}」という被依頼者（B）の「受諾」の上での発話と推論できる発話にもかかわらず、引き続き依頼者（A）の＜事情＞と＜効果的補強＞が続けられる。0048A「それ断ると、あとあとがちょっと出てくるじゃない↑。」「事情の同意要求」、0050-4A「B（あだ名）ちゃんなら、なんとかしてくれっかなーと思っ／／て。」「依頼の理由」、0070A「そん、今度なんかで返すから／／ねー。」「相手利益の約束表明」など（表の■）。畳みかけるように「相手利益の補強」を操出した後、被依頼者（B）に改めて0062A「じゃ、そうしてもらえる↑。」「意向の確認」と＜行動の促し＞を行う。

表4 ペア話者Aにおける「依頼」の機能的要素の出現例（高年層）

	高年層ペア
依頼1	<p>0004A : B (あだ名) ちゃん↑、あのさー、{笑} 《注目喚起》</p> <p>▼0006-1A : 悪いんだけど、《恐縮の表明》</p> <p>0006-2A : 日曜日に会があるじゃない。《依頼条件の確認》</p> <p>0008A : で、そんな、それ、ちょっとわたしさー、あの一、都合悪くなっちゃったのよねー。《事情》</p> <p>▼0010-2A : 悪いんだけど、《恐縮の表明》</p> <p>0010-3A : B (あだ名) ちゃん、出してくれる↑《交代の依頼》</p>
依頼応答1 (断り)	<p>0012-2A : 立川なんだってー。《依頼内容の詳細伝達》</p> <p>0014A : 立川の国立ー《依頼内容の詳細伝達》(1/2)</p> <p>0016A : 研究所ってーゆってたねー。《依頼内容の詳細伝達》(1/2)</p> <p>0018-1A : 確か1時間か2時間だと思／うんだー。《依頼内容の詳細伝達》</p> <p>■0022-1A : 長いね、《感想への同意》</p>
依頼2	<p>▼0022-2A : 悪い。《恐縮の表明》</p> <p>▼0022-3A : ごめん。《恐縮の表明》</p> <p>■0022-4A : 忙しいのは十分わかんだけさー。《相手事情の理解》</p> <p>0024A : ちょっと、あったしねー、そのときほら、お店があるじゃない。《事情》</p> <p>0026A : 予約が入っちゃったのよー。《事情》</p>
依頼応答2 (受諾)	<p>■0034A : なんかあんの↑。《理由説明の要求》</p> <p>▼0036A : 悪い。《恐縮の表明》</p> <p>▼0042A : ごめん／ねー。《恐縮の表明》</p> <p>0044A : こっちもさ、もうほーんとに困っちゃっててねー。《事情》</p> <p>0046-2A : 予約のお客様でもあるしー、《事情》</p> <p>■0048A : それ断ると、あとあとがちょっと出てくるじゃない↑。《事情の同意要求》</p> <p>0050-1A : だからどうしよかなーと思って、《事情》</p> <p>▼0050-3A : 申し訳ない、《恐縮の表明》</p> <p>■0050-4A : B (あだ名) ちゃんなら、なんとかしてくれっかなーと思／／て。《依頼の理由》</p> <p>■0052A : かわりに今度さ、ランチごちそうするから。《相手利益の補強》</p> <p>0054-2A : {笑} 《関係のやわらげ》</p> <p>0056A : {笑} 《関係のやわらげ》</p> <p>■0070A : そんな、今度なんかで返すから／ねー。《相手利益の補強》</p> <p>▼0060-2A : 悪い。《恐縮の表明》</p> <p>0062A : じゃ、そうしてもらえる↑。《意向の確認》</p>

依頼応答2 (受諾)	▼0068-1A：ありがとー、《謝意の表明》 ▼0068-2A：感謝しま／／す。《謝意の表明》 ■0070A：そん、今度なんかで返すから／／ねー。《相手利益の補強》
別れの挨拶	0076A：よろしくねー。《依頼の念押し》 ▼0078-2A：どうもー。《謝意の表明》

※ ▼：＜対人配慮＞、■：＜効果的補強＞

若年層では、《用件》が先行する点が老年層と大きく異なった。また、0008-2A「あるじゃん、」《事情の説明要求》が2度繰り返される点も、強い働きかけとして特徴的である。老年層と同様に、若年層の被依頼者（B）も依頼後にすぐ明示的な返事が得られず、しばらくBの情報要求に答える《依頼内容の詳細伝達》が続く。そして情報を得た挙句、0019-3 B「一応、でも、ちょっと、やりたいことあるんだよねー。」を聞き、0020-2A「でもさー、／／それ、」《理由説明の要求》（中断）を行うも、未完に終わった。すぐに被依頼者（B）の0021 B「代わりにいないと困る感じな／／の↑」に0022A「うんうん、そうなの。」《事情詳細確認への同意》で＜効果的補強＞をし、0024-1A「ごめん。」《恐縮の表明》、0024-2 A「お願いー、でき／／るー↑。」《交代の依頼》と話を進めた。被依頼者の受諾後、0028-1 A「じゃあ今度ランチでもおごるんで。」《相手利益の補強》を試みたが、0029-2 B「あー、いいよ、別に。」という返事だったので深追いせず、被依頼者の確認要求に0030-2A「そう／／そうそう。」《事情詳細確認への同意》で、依頼したい気持ちを強くアピールした。

最後に、発話の後の{笑}（笑い）《関係のやわらげ》の出現タイミングは両年層ともほぼ同じで、どちらも《相手利益の補強》の直後であった。

表5 ペア話者Aにおける「依頼」の機能的要素の出現例（若年層）

	若年層ペア
依頼1	0004-1A：えっとさー、《注目喚起》
	0004-2A：ちょっと一つお願いがあって電話したんだけどさー。《用件》
	0006A：あの、あさってー、今週の日曜日なんだけどー。《依頼条件の確認》
	0008-1A：ボランティアがあってー、／／《事情》
	0008-2A：あるじゃん、《事情の説明要求》
	0010A：あるじゃん。《事情の説明要求》
	0012-1A：それ、法事で行けなくなっちゃったんだよね。／／《事情》
	0012-2A：あたしが行くことになってたんだけどー。《事情》
	0014-1A：でさー、お願い。《用件》
	0014-2A：それ、代わりに参加してくれないかなー。《交代の依頼》

依頼応答1 (断り)	0016-2A：あの、ごみ拾い、なんだけど。《依頼内容の詳細伝達》 0018-2A：朝の10時に恵比寿駅西口に集合。《依頼内容の詳細伝達》 ■0020-2A：でもさー、／／それ、《理由説明の要求》(中断) ■0022A：うんうん、そうなの。《事情詳細確認への同意》
依頼2	▼0024-1A：ごめん。《恐縮の表明》 0024-2A：お願いー、でき／／るー↑。《意向の確認》
依頼応答2 (受諾)	▼0026-2A：ありがと。《謝意の表明》 ■0028-1A：じゃあ今度ランチでもおごるんで。《相手利益の補強》 0028-2A：{笑} 《関係のやわらげ》 ■0030-2A：そう／／そうそう。《事情詳細確認への同意》 0032-1A：じゃあ、お願いー／／しまーす。《依頼の念押し》 ▼0032-2A：ありがとねー。《謝意の表明》

※ ▼：＜対人配慮＞、■：＜効果的補強＞

以上、高年層ペアと若年層ペアを比較した結果、

- ・若年層依頼者（A）が使用した＜きりだし＞の《用件》を、高年層依頼者（A）は使用しなかった。
- ・高年層のほうが、＜効果的補強＞と＜対人配慮＞の回数が多い（《恐縮の表明》と《謝意の表明》）
- ・＜効果的補強＞の中を見ると、《（断りの）理由説明要求》と《相手利益の補強》は共通するが、それ以外は同じ機能的要素ではない
- ・＜効果的補強＞の機能的要素のヴァリエーションは高年層が多い（高年層6種類、若年層4種類）
- ・どちらも《相手利益の補強》としての「ランチをおごる」の直後に、《関係のやわらげ》（{笑}）を行った

ということがわかった。

3. 3. 明示的な「依頼」を避ける理由について（高年層）

これまで見てきたように、高年層では最初の「依頼」の後、次の「依頼」が明示的には行われなかった。構造上、高年層のほうが「依頼応答2」と「終了部（別れの挨拶）」の部分が長く複雑になったのも、このことと関係が深いと思われる。2度目の「依頼」あるいは「意向の確認」がすぐには行われなかった原因は、被依頼者（B）の明示的な「断り」がなかったからとも思える。

しかし、交代する用件の所要時間についての反応が 0021B「結構長い／／ねー。」だったことから、依頼者（A）は非明示的な「断り」を察知したはずである。そのことは、この後、依頼者（A）が《感想への同意》、《恐縮の表明》、《相手事情の理解》と＜効果的補強＞を次々に行ったことからわかる。しばらくの間、依頼者（A）は明示的な「依頼」を避け、《事情》を続けた。その後も＜対人配慮＞や＜効果的補強＞を続けた。このようにして、終了部の直前で《意向の確認》、終了部に入ってから《依頼の念押し》を行っている。結局、＜行動の促し＞は若年層と同じだけしているのである。

今回の結果を見る限り、高年層ペアの＜行動の促し＞は若年層と同程度であり、一方、＜対人配慮＞や＜効果的補強＞は明らかに若年層より多くなっている。

先に蒲谷ほか(1993:52)による「依頼行為」の定義を行ったが、互いの利益を強調できる「勧誘」に比べ、「依頼」はそれができない。したがって、依頼者（A）は被依頼者（B）に対して、明示的に「依頼」を繰り返して負担を強調するよりも、被依頼者（B）が納得し好意的な気持ちになるまで、＜対人配慮＞や＜効果的補強＞を重ねていく戦略を選んだと見るのが妥当ではないだろうか。若年層ペアとの違いは、年代による多忙さの違い、被依頼者（B）の負担への見積りの違いから生じたものであろう。

4. まとめ

首都圏女性ペアの高年層・若年層各1組の「依頼」談話を分析した。その結果、2つのペアの共通点と相違点は以下のとおりである。

談話構造に関しては、高年層には明示的な「断り」「受諾」がなく、「依頼2」も明示的でないまま進み、やや複雑な構造になった。若年層は比較的単純な構造だった。

機能的要素（とコミュニケーション機能）に関しては、＜きりだし＞＜状況説明＞＜情報要求＞＜効果的補強＞＜行動の促し＞＜対人配慮＞が共通して見られた。＜行動の促し＞の《交代の依頼》は「依頼」行為の中核的機能とみられるが、2度予定されていたものの両年層ともに最初の1度だけで、あとは《意向の確認》になっている。違いとしては、高年層のほうが＜効果的補強＞と＜対人配慮＞の回数が多く、機能的要素のヴァリエーションも多い。このことと「依頼2」が明示的に現れなかったことは無関係ではなく、「依頼」行為自体を目立たせず、＜効果的補強＞と＜対人配慮＞を繰り返すことで、被依頼者を納得させ、好意的な気持ちを抱かせる戦略を用いているのではないかという指摘を行った。

参考文献

- ザトラウスキー，ポリー（1993）『日本語の談話の構造分析—勧誘の戦略の考察—』くろしお出版 日本語研究叢書 5
- 蒲谷宏・川口義一・坂本恵（1993）「依頼表現方略の分析と記述—待遇表現教育への応用に向けて—」『早稲田大学日本語研究教育センター』5 p.52

- 熊谷智子 (1994) 国立国語研究所編『伝えあうことば 日本語教育映像教材中級編関連教材
4 機能一覧表』大蔵省印刷局 pp.5-167
- 熊谷智子・篠崎晃一 (2006) 「依頼場面での働きかけ方における世代差・地域差」国立国語
研究所『言語行動における「配慮」の諸相』くろしお出版 pp.19-54
- ザトラウスキー, ポリー (2011) 「第7章 談話」益岡隆志編『はじめて学ぶ日本語学—こ
とばの奥深さを知る 15 章—』ミネルヴァ書房 pp.129-133
- 杉村孝夫(2013)「依頼の場面の談話分析—大分県方言談話資料による—」福岡教育大学『福
岡教育大学紀要』第 62 号 第 1 分冊 pp.33-54

ペア入れ替え式ロールプレイ会話：場面2「依頼談話」

(1) 首都圏高年層女性ペア

【開始部】

	主導権	発話番号+発話者：発話	<行為的機能> 《機能的要素》
相手確認	(A)	0001-1B：あ、	B:注目表示
		0001-2B：もしもしー。	B:注目要求
		0002-1A：あ、	A:注目表示
		0002-2A：もしもし。	A:注目要求
		0003B：うん。	B:注目表示

【主要部】

依頼1	A	0004A：B（あだ名）ちゃん↑、あのさー。{笑}	B:注目要求
		0005B：うん。	B:注目表示
		0006-1A：悪いんだけど、	A:関係づくり，儀礼 《恐縮の表明》
		0006-2A：日曜日に会があるじゃない。	A:陳述・表出
		0007B：うん。	B:注目表示
		0008A：で、そん、それ、ちょっとわたしさー、あの一、都合悪くな っちゃったのよねー。	A:陳述・表出 《事情》
		0009B：あーそう。	B:注目表示
		0010-1A：うーん。そいでー、	A:注目表示
		0010-2A：悪いんだけど、	A:関係づくり，儀礼 《恐縮の表明》
		0010-3A：B（あだ名）ちゃん、出てくれる↑。	A:行為要求《交代の依頼》
依頼応答1	B	0011-1B：んー、そうだねー	B:注目表示
		0011-2B：どこー↑、場所。	B:情報要求
		0012-1A：あのねー、	A:注目表示
		0012-2A：立川なんだってー。	A:陳述・表出 《依頼内容の詳細伝達》
		0013-1B：あ、	B:注目表示
		0013-2B：立／／川。	B:陳述・表出
		0014A：立川の国立ー	A:陳述・表出(1/2) 《依頼内容の詳細伝達》

		0015 B : うん。	B:注目表示
		0016 A : 研究所って一ゆってたねー。	A:陳述・表出(2/2) 《依頼内容の詳細伝達》
		0017-1 B : んー、あ、ほんと。	B:注目表示
		0017-2 B : 何時間ぐらーい↑。	B:情報要求
		0018-1 A : んー、	A:注目表示
		0018-2 A : 確か1時間か2時間だと思／うんだー。	A:陳述・表出 《依頼内容の詳細伝達》
		0019-1 B : あ、	B:注目表示
		0019-2 B : そのぐらゐ。／／1時間、2時間、	B:注目表示
		0020 A : うん。	A:注目表示
		0021 B : 結構長い／／ねー。	B:陳述・表出
依頼 2	A	0022-1 A : 長いね、	A:陳述・表出 《感想への同意》
		0022-2 A : 悪い。	A:関係作り・儀礼《 恐縮の表明》
		0022-3 A : ごめん、	A:関係作り・儀礼《 恐縮の表明》
		0022-4 A : 忙しいのは十分わかんだけどさー。	A:陳述・表出 《相手事情の理解》
		0023 B : うーん。	B:注目表示
		0024 A : ちょっと、あつたしねー、そのときほら、お店があるじゃない。	A:陳述・表出 《事情》
		0025 B : うん。	B:注目表示
		0026 A : 予約が入っちゃったのよー。	A:陳述・表出 《事情》
依頼 応答 2	B	0027 B : あー、そうなんだー。	B:注目表示
		0028 A : うん。	A:注目表示
		0029-1 B : んー、まあさー、	B:注目表示
		0029-2 B : A (名) ちゃんの、こ、頼みだからねー、	B:陳述・表出
		0030 A : んー。	A:注目表示
		0031 B : まあ、んー、どうしてもってゆうんだつたらさー、ほかの約束があるんだけどね、	B:陳述・表出
0032 A : あ、	A:注目表示		
0033 B : ちょっと聞いてみたりしてー、あのー、なるべく行かれるようにするわー。	B:陳述・表出		

	0034A : なんかあんの↑。	A:情報要求
	0035B : んー。	B:注目表示
	0036A : 悪い。	A:関係づくり, 儀礼 《恐縮の表明》
	0037-1B : ランチー。	B:陳述・表出
	0037-2B : {笑}	B:注目表示
	0038A : あ、ラン//チ。	A:注目表示
	0039-1B : んー、だけど、まあ、それはさー、	B:注目表示
	0039-2B : 頼もうと思えば、あの一、変えられる人だからー。	B:陳述・表出
	0040A : うん。	A:注目表示
	0041B : まあ、頼み込むわー、そしたら。	B:陳述・表出
	0042A : ごめん//ねー。	A:関係づくり, 儀礼 《恐縮の表明》
	0043B : うん、んー。	B:注目表示
A	0044A : こっちもさ、もうほーんとに困っちゃっててねー。	A:陳述・表出 《事情》
	0045B : うん。	B:注目表示
	0046-1A : あの一、	A:注目表示
	0046-2A : 予約のお客様でもあるしー、	A:陳述・表出 《事情》
	0047B : うん。	B:注目表示
	0048A : それ断ると、あとあとがちよっと出てくるじゃない↑。	A : 情報要求 《事情の同意要求》
	0049B : そうだよ//ねー。	B:陳述・表出
	0050-1A : だからどうしよかなーと思って、	A:陳述・表出 《事情》
	0050-2A : あー、	A:注目表示
	0050-3A : 申し訳ない、	A:関係づくり, 儀礼 《恐縮の表明》
	0050-4A : B (あだ名) ちゃんなら、なんとかしてくれっかなーと思 っ//て。	B:陳述・表出 《依頼の理由》
	0051B : うん、//そうね。	B:注目表示
	0052A : かわりに今度さ、ランチごちそうするから。	A:陳述・表出 《相手利益の補強》
B	0053-1B : そうだねー、//	B:注目表示
	0053-2B : じゃあデラックスな	B:陳述・表出 (1/2)
	0054-1A : うん。	A:注目表示

	0054-2A : {笑}	A:注目表示 《関係のやわらげ》
	0055-1B : フルコースを頼むわー。	B:陳述・表出 (2/2)
	0055-2B : {笑}	B:注目表示
	0056A : {笑}	A:注目表示 《関係のやわらげ》
	0057B : そんなら、んー、な、友達のほうのは、ちょっと、来週に変更してもらわー。	B:陳述・表出
	0058A : そーお。	A:注目表示
	0059B : うん。	B:注目表示
A	0060-1A : んー、	A:注目表示
	0060-2A : 悪い。	A:関係づくり, 儀礼 《恐縮の表明》
	0061B : //そんなふに、	B:陳述・表出 (1/2)
	0062A : じゃ、そうしてもらえ↑。	A:行為要求 《意向の確認》
	0063B : 電話しとくから。	B:陳述・表出(2/2)
	0064A : うーん。	A:注目表示
	0065-1B : じゃあ、まあ、いいや、い、	B:陳述・表出
	0065-2B : 了解しとく。	B:陳述・表出
	0066A : そーお。	A:注目表示
	0067B : うん。	B:注目表示
	0068-1A : ありがとー、	A:関係づくり, 儀礼 《謝意の表明》
	0068-2A : 感謝しま//す。	A:関係づくり, 儀礼 《謝意の表明》
	0069B : はーい。	B:注目表示
	0070A : そんな、今度なんかで返すから//ねー。	A:陳述・表出 《相手利益の補強》
	0071B : そうだねー。	B:注目表示
	0072A : うん。	A:注目表示
	0073B : 期待してるわー。	B:陳述・表出
	0074A : はい。	A:注目表示
0075-1B : はい、	B:注目表示	

【終了部】

別 れ の 挨拶	(B)	0075-2B : じゃあねー、またねー。	B:関係づくり, 儀礼
		0076A : よろしくねー。	A:関係作り, 儀礼<<依頼の念押し>>
		0077-1B : はい、	B:注目表示
		0077-2B : どうもねー。	B:関係づくり, 儀礼<<謝意の表明>>
		0078-1A : それじゃあ、	A:注目要求
		0078-2A : どうもー。	A:関係づくり, 儀礼<<謝意の表明>>
		0079B : はい。	B:注目表示
		0080A : ごめんくだ//さーい。	A:関係づくり, 儀礼
		0081-1B : はい、ごめんくだ//さーい。	B:注目表示
		0081-2B : はい、ごめんくだ//さーい。	B:関係づくり, 儀礼
		0082A : はい。	A:注目表示

(2) 首都圏若年層女性ペア

【開始部】

	主導権	発話番号、発話者：発話	<行為的機能> <<機能的要素>>
相手確認	(A)	0001B : もしもーし。	B:注目要求
		0002-1A : あ、	A:注目表示
		0002-2A : もしもし、	A:注目要求
		0002-3A : B (あだ名)。	B:情報要求
		0003B : うーん。	B:注目表示

【主要部】

依頼1	A	0004-1A : えっとさー、	A:注目表示<<注目喚起>>
		0004-2A : ちょっと一つお願いがあつて電話したんだけどさー。	A:陳述・表出<<用件
		0005B : うんうん。	B:注目表示
		0006A : あの、あさつてー、今週の日曜日なんだけどー。	A:陳述・表出<<依頼条件の確認>>
		0007B : うん。	B:注目表示
		0008-1A : ボランティアがあつてー、//	A:陳述・表出<<事情

		0008-2A : あるじゃん、	A:情報要求《事情の 確認要求》
		0009B : うん。	B:注目表示
		0010A : あるじゃん。	A:情報要求《事情の 確認要求》
		0011B : うんうん。	B:陳述・表出
		0012-1A : それ、法事で行けなくなっちゃったんだよね。//	A:陳述・表出《事情
		0012-2A : あたしが行くことになってただけどー。	A:陳述・表出《事情
		0013B : あー、そうなんだ、うん。	B:注目表示
		0014-1A : でさー、お願い。	A:行為要求《用件》
		0014-2A : それ、代わりに参加してくれないかなー。	A:行為要求《交代の 依頼》
		0015-1B : あー、	B:注目表示
依 頼 応 答 1 断 り	B	0015-2B : ボランティア、その↑。	B:情報要求
		0016-1A : そうそう。//	A:陳述・表出
		0016-2A : あの、ごみ拾い、なんだけど。	A:陳述・表出《依頼 内容の詳細伝達》
		0017-1B : え、	B:注目表示
		0017-2B : 時間、時間とかって。	B:情報要求
		0018-1A : んとねー、	A:注目表示
		0018-2A : 朝の 10 時に恵比寿駅西口に集合。	A:陳述・表出《依頼 内容の詳細伝達》
		0019-1B : あー、そっかー。	B:注目表示
		0019-2B : うーん、	B:注目表示
		0019-3B : 一応、でも、ちょっと、やりたいことあるんだよねー。	B:陳述・表出
		0020-1A : あー、あー、そうなの。	A:注目表示
		0020-2A : でもさー、//それ、	A:情報要求(中断)《 理由説明の要求》
		0021B : 代わりにいないと困る感じな//の↑。	B:情報要求
		0022-1A : ほんと、	A:注目表示
		0022A : うんうん、そうなの。	A:陳述・表出《事情
0023B : あー、そっかそっかー。	B:注目表示		
依 頼 2	A	0024-1A : ごめん。	A:関係づくり、儀礼 《恐縮の表明》
		0024-2A : お願いー、でき//る↑。	A:行為要求《意向の 確認》
		0025-1B : {笑}	B:注目表示

依頼 応答 2 受諾	B	0025-2B : うーん。	B:注目表示
		0025-3B : じゃあ、わかった。	B:陳述・表出
		0025-4B : いいよー。	B:陳述・表出
		0026-1A : あ、ほんと↑。//	A:注目表示
	A	0026-2A : ありがとう。	A:関係づくり, 儀礼 《謝意の表明》
		0027B : うん。	B:注目表示
		0028-1A : じゃあ今度ランチでもおごるんで。	A:陳述・表出《相手 利益の補強》
		0028-2A : {笑}	A:注目表示《関係の やわらげ》
		0029-1B : あー、	B:注目要求
		0029-2B : いいよ、別に。	B:陳述・表出
	B	0029-3B : 10 時に恵比寿の西口ねー↑。	B:情報要求
		0030-1A : はいはい。	A:注目表示
		0030-2A : そう//そうそう。	B:陳述・表出《事情 詳細確認への同意》
		0031-1B : うーん	B:注目表示
		0031-2B : わかった。	B:陳述・表出
		0031-3B : じゃあ。	B:関係づくり, 儀礼
	A	0032-1A : じゃあ、お願いーい//しまーす。	A:関係づくり, 儀礼 《依頼の念押し》
		0032-2A : ありがとねー。	A:関係づくり, 儀礼 《謝意の表明》
		0033-1B : はい、	B:注目表示

【終了部】

終 了 部	(B)	0033-2B : バイバーイ。	B:関係づくり, 儀礼
		0034-1A : うん、	A:注目表示
		0034-2A : じゃあねー。	A:関係づくり, 儀礼